

読書のすゝめ

その20

H 27 11 / 1

第27回 読書感想画コンクール指定図書

「読書によって得た感動を絵画表現することをおして、児童生徒の読書力、表現力を養うとともに、読書活動の振興を図る。」という目的で全国学校図書館協議会主催のコンクールが実施されています。一人で自由読書・指定読書、それぞれ各1点応募できます。中央審査委員会への都道府県代表作品の送付締切が、28年1月21日(木)なので、校内での締切は冬休み明けになります。感想画の寸法や用紙・画材など詳細は芸術科(美術)の先生か図書部の先生に聞いてください。奮って応募してください! 応募票は図書館にあります。



『ファイト!木津西高校生徒会』 本田有明(理論社)

県下一の進学校に不合格となり、不本意ながら不良高校に特待生として入学した主人公。期せずして生徒会長になった主人公が、コワモテ応援団員とともに甲子園に向けて奮闘する学園小説。生徒会選挙、夏の選手権大会、初恋と失恋―。汗と涙と笑いに彩られた甘酸っぱい青春物語。



『リフカの旅』 カレン・ヘス(理論社)

百年ほど前、一人のユダヤ人の少女がロシア・ウクライナの町を脱出した。めざすはアメリカ!どんなに厳しい状況にも希望を持ちつづける、12歳の魂のことは。カレン・ヘスが大叔母の体験を元に書きあげた、フェニックス賞受賞作品。

どんな困難が起こっても、書くことで自分に折り合いをつけながら、そこここの言葉を覚えていくリフカの姿に、しなやかに生きていく強さを教えられます。また、あとがきを読むと、この時代のロシアがわかり、物語を理解する助けになります。



『渋谷ギャル店員 ひとりではじめたアフリカボランティア』 栗山さやか(金の星社)

元渋谷ギャル店員の著者がバックパッカーになって世界へ。バックパッカーとして、約六十か国を旅してたどりついたアフリカ・モザンビーク。毎日のように、たくさんの人たちが貧しさや病気で苦しむ、死んでいく現実を目の当たりにした彼女は、女性や子どもを支援する協会「アシヤンテママー」をたつたひとりで設立した。目の前で苦しむ友達を助けたいという一心で、ひたむきにとりくむ彼女の姿は、現地の人たちの心を動かしていく―。彼女の活動を追ったノンフィクション。



『?が!に変わる時』 小国綾子(沙文社)

「新聞記者ってどんな仕事?」現役の女性新聞記者が、新聞記者という仕事の楽しさ、働くことの魅力を語ります。そして、著者小国綾子さんが、人生の節目節目をどうとらえ、どのようにして進んでいったかが描かれています。

迷ってしまったときは「やったことのない方を選ぶ」という信念。これから、人生を歩んでいこうとする若者たちに大きな示唆を与える一冊です。



※ 紹介した4冊とも図書館にあります。
他に『万次郎』も中学校・高等学校の部で指定図書になっています。

